

備前市事務事業評価表

事業の概要			
事務事業名	加子浦歴史文化館管理運営事業	コード	03-03-01-03
事業開始年度	平成9年	根拠法令・要綱等	備前市加子浦歴史文化館設置条例
総合計画	大項目 基本目標 生きがいのあるまちづくり	問合せ先	担当課(室) 生涯学習課
	中項目 基本施策 歴史と文化の輝くまちづくり		職・氏名 文化係長 石井啓
	小項目 施策 文化芸術の振興		電話 64-1841

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	市内外を問わず、小学生、中学生、高校生、大学生等、また生涯学習をしようとする人々。歴史研究者・郷土史研究者(愛好家)・文学研究者・観光客・資料寄託者・資料寄贈者。
目的(何のために)	郷土に関する歴史・民俗・文芸資料の収集と保存に努め、それらを後世に伝え、遺す。で収集した資料をもとに常設・企画展を行い、当館利用者の文化的向上と調査研究の一助となることを目的とする。
行政活動(どのような方法で)	郷土資料の収集については、購入による場合と寄贈を受ける場合の2通りによる。こうして所蔵した資料と、寄託資料、さらに借用資料をもとに、テーマを設定して企画展を行う。これにより、入館者に対し、歴史と文化について広く知ってもらい、「温故知新」を体験してもらう。また、テーマごとに講師を依頼し、講座形式で、テキストの資料を配布、参加者の歴史と文化の理解を深める。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	当館の入館者のうち、市内の入館者はほとんどなく、大部分が観光客である。当館の存在や所在地さえ、知らない市民がほとんどであろうと思われる。市の最東端に位置するハンディを背負いながらも、市民の利用度を少しずつ高めたい。

事業の実績					
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	企画展の開催	人	2,756	3,438	3,509
	市民文化講座の開催	人	58	308	160
	事業費	千円	5,940	5,776	4,906
	事業費	千円	10,150	4,560	5,277
	事業費計		16,090	10,336	10,183
	財源	千円		798	
国・県・市・道・支・出・金			497	590	
受・益・者・負・担・債・権			15,593	8,948	
一・般・財・源			2.15	0.75	
必要人員	人			0.91	

結果指標名					単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
結果指標	入館者総数	説明	加子浦歴史文化館への1年間の入館者総数					
	結果指標量	人	2,756	3,438	3,509			
	対前年比	%	89	124.7%	102.1%			
	活動コスト	円	5,919,662	5,755,518	4,866,491			
	単位当たりコスト	円	2,148	1,674	1,387			
結果指標	市民文化講座参加者数	説明	市民文化講座1年間の参加者数					
	結果指標量	人	58	308	160			
	対前年比	%	-	531.0%	51.9%			
	活動コスト	円	20,000	20,000	40,000			
	単位当たりコスト	円	345	65	250			

事業の成果			
成果指標名	年間入館者及び講座参加者	式又は説明	1年間の年間入館者数と市民文化講座の参加者の合計
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	2,814.00	3,746.00	3,669
対前年比	90.89%	133.12%	97.94%
到達目標値	3,250(3,100+150)		平成20年~平成23年

(平成19年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A-E>		B
妥当性の評価	目的	<input checked="" type="checkbox"/> 関法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	課題認識	
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	文化施設としての当館のあり方には、観光施設と教育施設の二面を持っている。平成19年度の当館の入館者数は増加しており、3,500人を上回った。市民文化講座の参加人員は、昨年より減ってはいるものの、この事業は平成17年から始まり、平成18年度の参加者数は初めてのこともあり、参加者数が多かった。平成19年度は、定着した講座の参加者数といえ、市民文化講座関連事業が、地道な文化活動として	
	行政活動	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない	効率性評価<A-E>	
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	課題認識	
効率性の評価	市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の意図する成果 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	毎年当館に配分される予算は減少の一途をたどっているが、逆に当館の事業の参加者は、平成17年度から19年度にかけて、年々増加している。これは、コストの削減と、サービスの提供とが、程よいバランスをもって事業が行われている証である。効率性は、非常に高まったといえる。	
	コスト	<input type="checkbox"/> 市民・団体などから要望・要請の強い事業である <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である <input type="checkbox"/> 現在的手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	有効性評価<A-E>	
	手 段	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい <input checked="" type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難 <input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある	課題認識	
	職 場	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	成果指標は、平成18・19年度いずれも到達している。備前市観光協会・備前市観光ボランティアガイド協会の、ボランティア養成講座としても利用され、1つの観光スポットとしての、当館の任務を認識しなくてはならない。	
有効性の評価	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input checked="" type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	有効性評価<A-E>	
	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	課題認識	
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	成果指標は、平成18・19年度いずれも到達している。備前市観光協会・備前市観光ボランティアガイド協会の、ボランティア養成講座としても利用され、1つの観光スポットとしての、当館の任務を認識しなくてはならない。	

平成20年度の状況			
重点化している	休止している	説明	当該の目標到達度は、平成18・19年度は、いずれも高く、到達目標値の3,250を上回っている。しかし平成20年度から、休館日が月・火の2日となり、その結果祝祭日との関連で3連休となるケースが数回あり、入館者数の減少と、サービス低下は避けられない。
前年度と同様に継続している	他の事業と統合している	説明	
見直し継続している	平成19年度で廃止・完了	説明	
事業を縮小している		説明	
目標値	結果指標量	3,150人(入館者数)	150人(講座参加者数)
	結果指標量	3,250人(年間入館者数3150人+講座参加者150人)	

総合評価		評価区分	
前述したように、当館のありかたとしては観光施設と教育施設の2面があるが、入館者の割合としては、ほとんどが観光客である。景気の低下にもかかわらず、平成17年から19年にかけて、入館者数は徐々に増加し、事業のコストは低下した。新事業としての市民文化講座の事業も定着しつつあり、さらなる発展をめざしたいが、当館の今後の問題として、担当者の考えでは、職務上の分化(学芸職と事務職)が必須条件であって、これを解決しないかぎり、事業の深化と飛躍はのぞめない。		B	

平成21年度以降の方向性	
さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	事業の縮小を検討する
現状のまま継続する	休止・廃止を検討する
見直しのうえで継続する	他の事業と統合を検討する
	平成20年度で廃止・完了

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	「文化施設の横断」(仮称)と題し、市民に感想を求め、広報に掲載してはどうかと思う。たとえば各文化施設の企画展ごとの感想を、当館に送る。当日生町のニーズはつかみがない。資料調査委員のほか、日生町の現状を知る、運営上の助力を依頼できるボランティアが、担当からいよいよはじまる。	今年度から年度から	当館と地域の人々とのつながりが期待でき、事業の発展もめざめる。
効率性	当館に送る。当日生町のニーズはつかみがない。資料調査委員のほか、日生町の現状を知る、運営上の助力を依頼できるボランティアが、担当からいよいよはじまる。	年内	地域色の高い当館のニーズを集め、文化施設へ理解を深めることができる。
有効性	事業は縮小されたために、21年度の発達しはたさない。しかし市民文化講座の市民参加は、定着した数値を一つ努力しなければならぬ。	常時	郷土の歴史と文化に、興味をもつ人を増やすことができる。